

# 移動市長室

## 筑紫野市「障害」児・者問題を考える会

共生社会をめざして

地域や学校をつなぐ活動



通算95回目となる移動市長室を、11月6日(水)にカミリーヤで開催し、筑紫野市「障害」児・者問題を考える会の会員11人と懇談を行いました。

筑紫野市「障害」児・者問題を考える会(以下、考える会)は、障がいを持つ人の人権が保障された共生社会をめざして昭和54年に設立されました。今回の懇談では、多岐にわたる活動内容や、それに関わる会員の皆さんの思いなどを聞きました。

### 人をつなぐ役割を

考える会は、今年で設立40周年を迎えました。その始まりは、障がいがあっても住んでいる地域の学校に通わせたい、通いたいという親子の

思いでした。現在も、学校や市と連携し、課題の共有や情報交換などを行っています。

また、市民から相談を受けて必要に応じて関係機関を紹介したり、さまざまなイベントを企画し、地域交流の場づくりを行うなど、障がいのある人やその家族、地域・学校をつなぐために精力的に活動しています。

### 安心して就学できるように

会員から印象深い行事を聞いた中で、特に多かったのが就学前交流会です。実際に学校に通っている児童の保護者に悩みを相談したり、入学前から学校の教員と顔を合わせて話を聞ける場となっています。

障がいがあることで子どもの就学に不安を持つ保護者や、学校選びに迷っている人にとって、安心して入

学に備えられるありがたい機会だと言われました。

### 子どもたちの居場所として

子どもたちの余暇活動の支援として、音楽教室やボウリング教室など、さまざまな教室を開催しています。参加者にとって、放課後の居場所や異年齢との交流の場にもなっているようです。

また、月に一度開催されている体験マルシェでは、販売を通して親子の交流や子どもたちの社会経験が深められるといった声もありました。「行事に参加するようになって、親子で外に出る機会が増えました」と会員は話します。





### 「障害」児・者の自立へ向けて

最初は、障がいのある子どもの就学が始まりだった、考える会。これから課題となるのは、子どもたちが成長した先にある就労だと理事長の大島さんは言います。障がいのある人の自立した生活のために、会として何ができるのか、県内にとどまらず全国に出向き、「仕事をつくる」道を探っているそうです。

「できないことではなく、できることに目を向けることが大切。これからも人とのつながりにこだわりながら、共に生きる社会を目指していきます」と力強く語ってくれました。

### 参加者の感想

・ 私たちの話をとても熱心に聞いてくださって、より市長を身近に感じることができました。

・ 市長が私たちをすごく気にかけてくださっていることがお話から伝わって、一人じゃないんだと心強い思いがしました。



### 藤田市長の一言

大島理事長の強い信念に基づきリーダーシップのもと、会を通じてのつながりを大切にしながら、お互いが支え合って活動されていることがよく伝わってきました。できることを伸ばす生き方、障がいのある人たちの自立に向けて支援をしていただいていることに心から敬意を表します。

会員の皆様から障がいを取り巻く現状についてお話いただき、共生社会の実現に向け、行政として何かできることはないか改めて問う機会になりました。本日いただいた貴重なご意見は、今後の市政に生かしてまいります。

